

# 巻頭言



代表取締役 執行役員社長

**井上 晃夫** Akio Inoue

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

また、平素から「明電時報」をご愛読いただき、厚く御礼申し上げます。

今、世界は生成AIや環境対応技術などの技術革新、地政学リスクに伴うエネルギー資源や設備の調達の不確実性など複雑に絡み合う変化の中で、電力をはじめとするエネルギーインフラの社会的意義と安定供給の重要性が、非常に高まっています。

明電グループは今年度、「中期経営計画2027」を策定しました。本計画では、「ニーズに対応した着実な成長」と「未来に向けた変化・挑戦」を両立、すなわち既存事業の持続的成長と非連続的成長を実現することを目指します。本号では、取り組みの成果をご紹介します。

電力インフラグループでは、電力・エネルギー事業で、植物油を絶縁冷却媒体として使用した環境配慮型の変圧器や、電力供給の再生可能エネルギー比率増加とそれに伴う系統慣性低下の対策を目的としたVSG-PCSを納入しました。国内外の需要に応えるべく、環境に配慮した製品の拡充を目指します。

社会システムグループでは、電鉄用システム事業で、AI技術を組み合わせた架線検測装置を納入し、省人化と品質の向上に貢献しています。水インフラシステム事業では、水道施設の再構築について、クラウド活用による広域監視DXを官民連携で推進し、水道事業の効率化に貢献しています。AIやクラウドなどの技術導入によって、更なる効率化と品質の向上を目指します。

産業電子モビリティグループでは、電子機器事業で、小型かつ高耐電圧の低周波対応可変VCを開発し、装置の小型化と高性能化の両立に貢献しています。モビリティ事業では、耐環境型4WDシャシダイナモメータを納入し、環境試験の信頼性向上に貢献しています。

フィールドエンジニアリンググループでは、保守・メンテナンス事業で、補助リレー試験ユニットを拡充し、メンテナンス作業の効率化と高精度化に貢献しています。

そして、これら事業を支える研究開発では、将来の競争力確保に向けて「指向型研究」を強化し、社会ニーズを先取りした技術基盤を構築し、持続的な成長を実現していきます。

私ども明電グループは、今後も更なる成長のため、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を両立させてまいります。皆様方の変わらぬご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。